

平成24年3月期  
決算説明資料

平成24年5月15日

 川重冷熱工業株式会社

# 平成24年3月期 決算概要

# 平成24年3月期の総括



当事業年度の当社の受注高は、主に空調機器本体で当事業年度後半から吸収式冷温水機の電力需要のピークカット効果が評価されて機器本体の台数が増加したことにより、前期比6億72百万円増加の161億34百万円となりました。売上高は、ボイラ機器本体ならびに改修改造工事が増加したことにより、前期比6億97百万円増加の159億48百万円となりました。

利益面では、空調機器の大型案件の売上高減少等による影響ならびに研究開発費の増加等により、営業利益は、前期比1億71百万円減少の3億16百万円、経常利益は、上記に加え、PCB処理費用等の環境対策費87百万円を計上したこと等により、前期比2億40百万円減少の2億50百万円となりました。当期純利益は、税制改正に伴う繰延税金資産の処理の見直しにより、法人税が1億31百万円増加したため、14百万円となりましたが、3億95百万円の特別損失を計上した前事業年度に比べますと1億47百万円の好転となりました。

# 平成24年3月期 損益計算書



金額単位：百万円(百万円未満切捨て)

	前 期	当 期	前 期 比	備 考
売 上 高	15,250	15,948	104.6%	主にボイラ機器の売上増加による
売上総利益	3,975	3,982	100.2%	
販売費及び一般管理費	3,487	3,665	105.1%	研究開発費の増加等による
営業利益	488	316	64.8%	
営業外収益	20	37	185.0%	
営業外費用	18	103	572.2%	環境対策引当金の計上による
経常利益	491	250	50.9%	
特別利益	-	19	-	
特別損失	395	-	-	関係会社に係る特別損失の計上による
税引前当期純利益	95	269	283.2%	
法人税、住民税及び事業税	82	133	162.2%	
法人税等調整額	146	122	83.6%	
当期純損益	133	14	10.5%	

# 平成24年3月期 貸借対照表



## 資産の部

金額単位:百万円(百万円未満切捨て)

	前 期	当 期	前 期 比	備 考
流動資産	7,579	8,733	115.2%	
現金及び預金	12	6	50.0%	
受取手形・売掛金	5,232	6,439	123.1%	
棚卸資産	1,054	1,390	131.9%	
繰延税金資産	281	315	112.1%	
その他	998	580	58.1%	
固定資産	3,317	3,545	106.9%	
有形固定資産	1,645	1,587	96.5%	
無形固定資産	360	307	85.3%	
繰延税金資産	1,067	912	85.5%	
投資その他の資産	243	738	303.7%	関係会社への増資による
資産合計	10,897	12,278	112.7%	

# 平成24年3月期 貸借対照表



## 負債・純資産の部

金額単位：百万円(百万円未満切捨て)

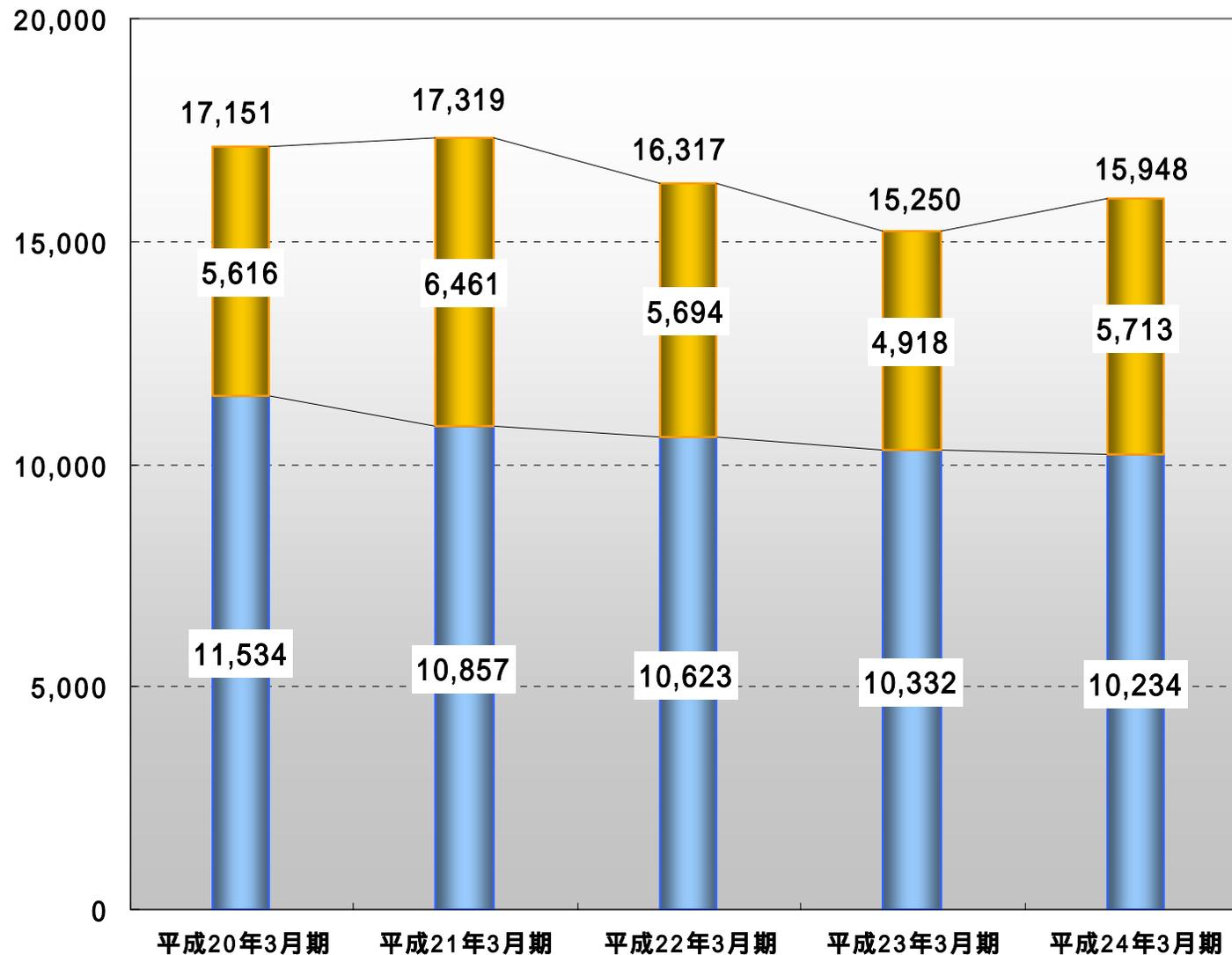
	前 期	当 期	前 期 比	備 考
<b>流動負債</b>	4,267	5,788	135.6%	
支払手形・買掛金	3,047	4,352	142.8%	
前受金	82	49	59.8%	
未払金・設備支払手形	124	99	79.8%	
その他の流動負債	1,013	1,287	127.0%	
<b>固定負債</b>	2,643	2,538	96.0%	
退職給付引当金	2,564	2,397	93.5%	
その他の固定負債	78	141	180.8%	環境対策引当金の計上による
<b>負債合計</b>	6,910	8,326	120.5%	
<b>資本金</b>	1,460	1,460	100.0%	
<b>資本剰余金</b>	1,228	1,228	100.0%	
<b>利益剰余金</b>	1,302	1,266	97.2%	
(内 当期純利益)	133	14	-	
<b>自己株式</b>	16	17	-	
<b>株式等評価差額</b>	11	12	109.1%	
<b>純資産合計</b>	3,986	3,951	99.1%	
<b>負債・純資産合計</b>	10,897	12,278	112.7%	

# 売上高の推移

(単位:百万円)

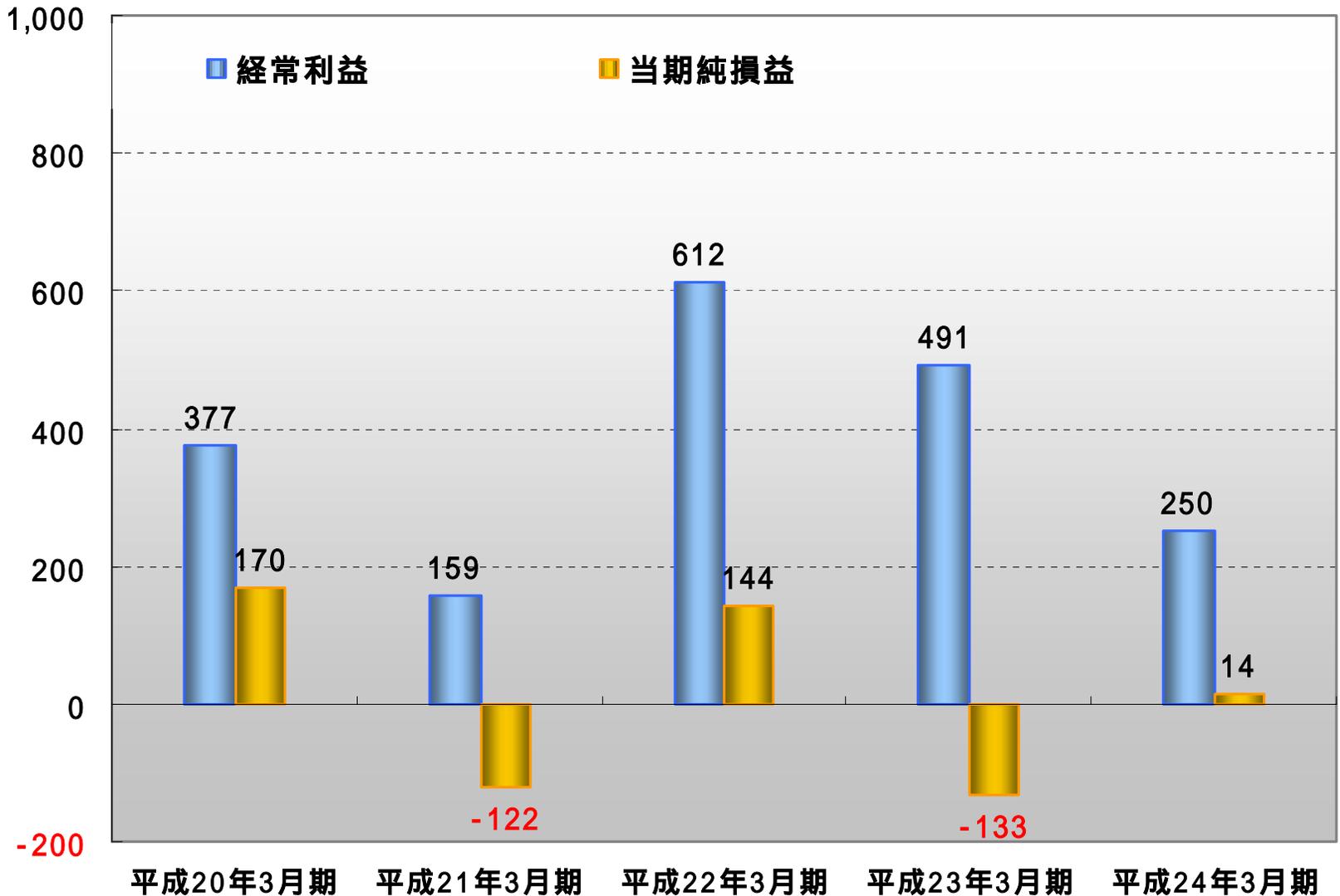
■ 空調事業

■ ボイラ事業



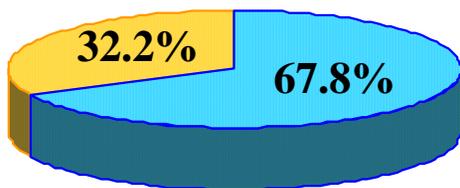
# 利益の推移

(単位:百万円)



# 売上高構成比の比較

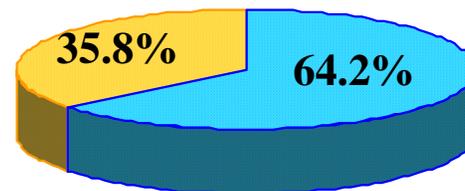
ボイラ事業



空調事業

平成23年3月期

ボイラ事業



空調事業

平成24年3月期

## 空調事業

機器本体の売上高は、大型吸収冷温水機の減少により、前期を下回りました。

改修改造工事・メンテナンスの売上高は、オーバーホール等の大口工事が、減少したことが影響し、前期を下回りました。

## ボイラ事業

機器本体の売上高は、大型の水管ボイラならびに炉筒煙管ボイラの増加により前期を上回りました。

改修改造工事・メンテナンスの売上高は、省エネ改造等の工事が増加したため、前期を上回りました。

**平成25年3月期 業績予想**

# 平成25年3月期の業績予想



金額単位：百万円(百万円未満切捨て)

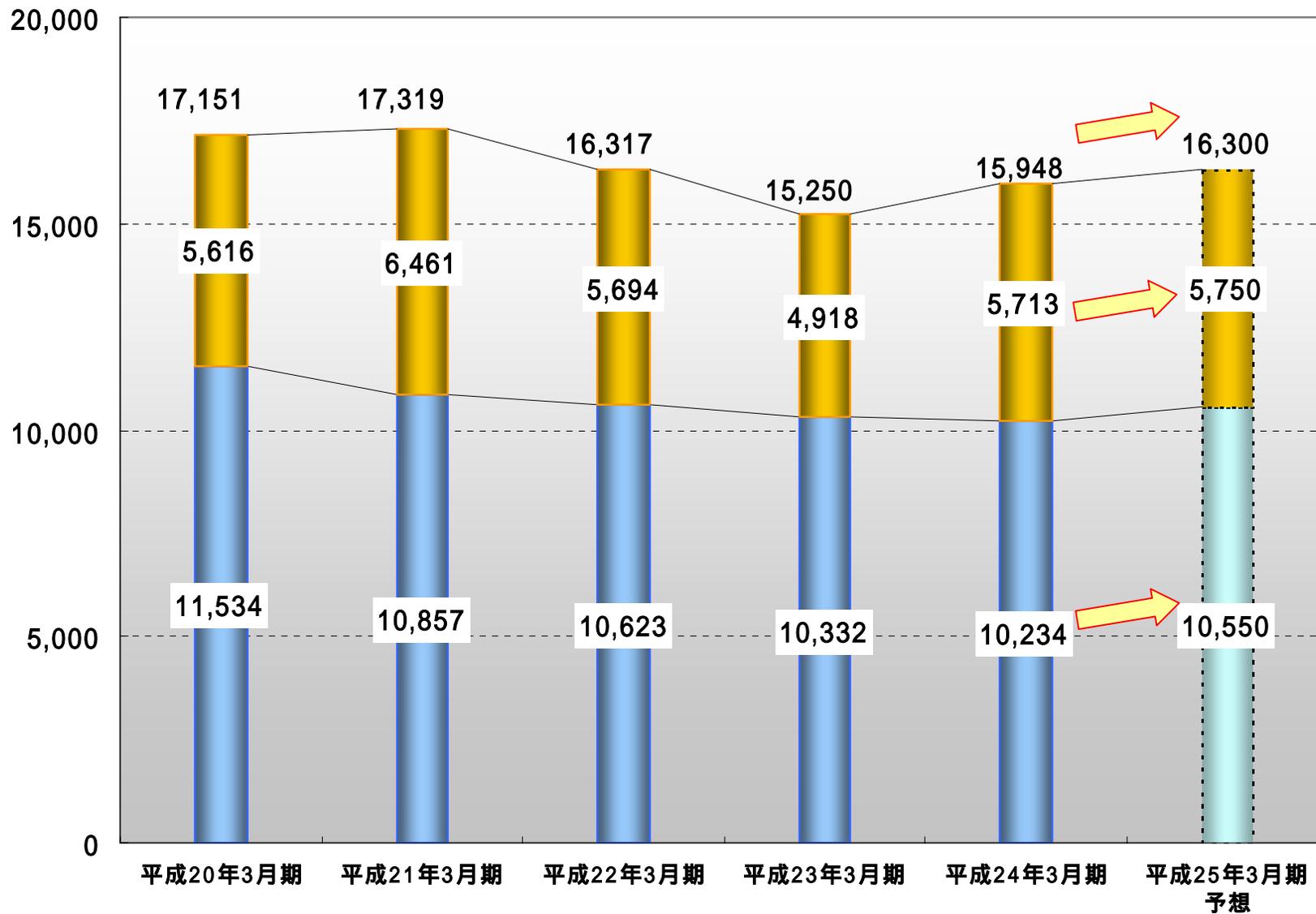
	当 期	来 期(予)	前 期 比	備 考
売 上 高	15,948	16,300	102.2%	
空調事業	10,234	10,550	103.1%	
ボイラ事業	5,713	5,750	100.6%	
営業利益	316	400	126.6%	
経常利益	250	400	160.0%	
当期純利益	14	220	1571.4%	

# 売上の推移(予想)

(単位:百万円)

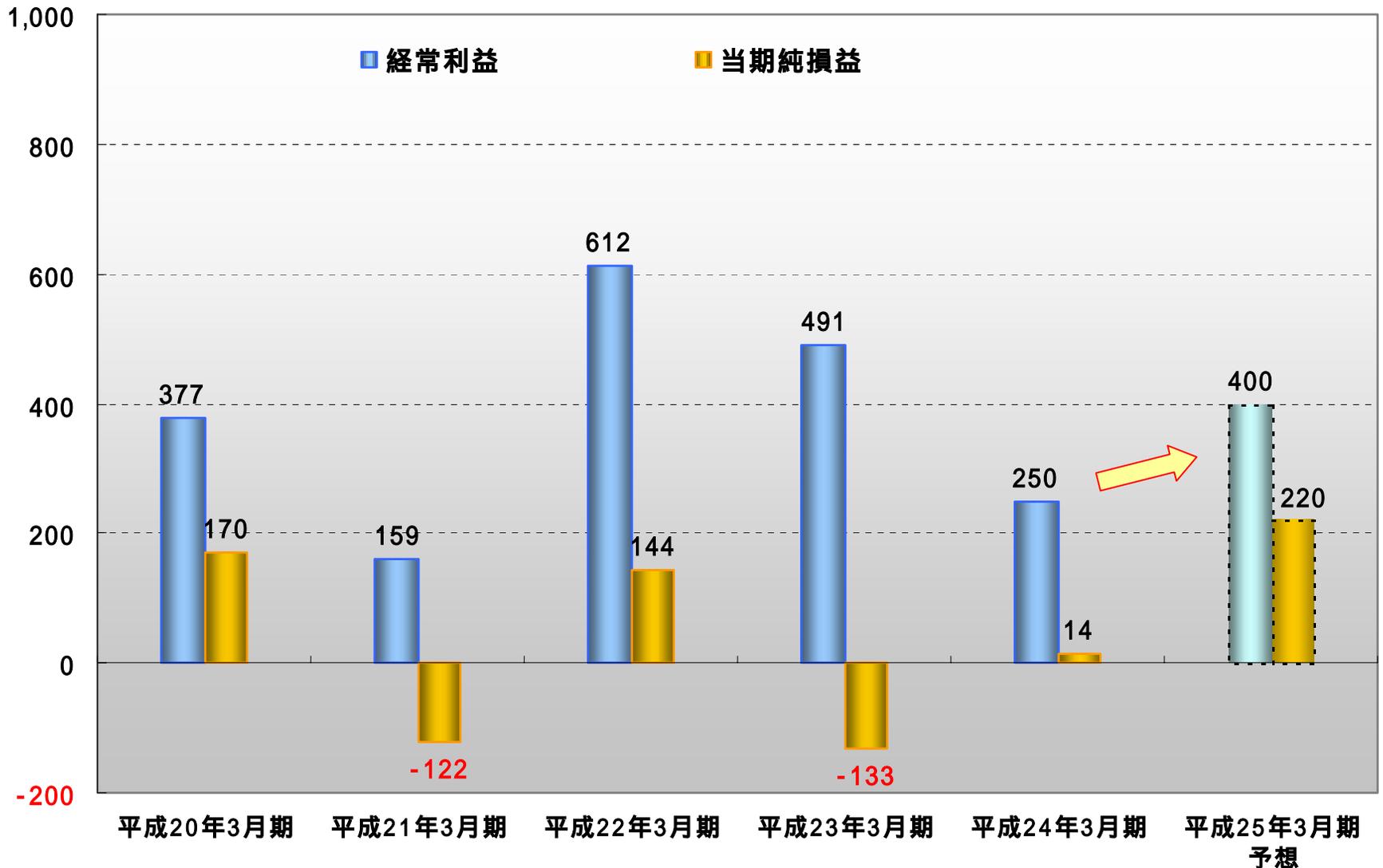
■ 空調事業

■ ボイラ事業



# 利益の推移(予想)

(単位:百万円)



## 空調事業

世界初の製品化に成功した「三重効用高効率ガス吸収冷温水機」、ガス3社が設けた基準をクリアするグリーン機種に認定された「シグマE-ス1.43シリーズ」、東京ガスと共同で開発した「高効率排ガス投入型吸収冷温水機」、ガス3社と共同開発した太陽熱利用の「ソーラー吸収冷温水機」、年間の燃料消費量・CO<sub>2</sub>排出量を大幅に削減した「シグマE-ス1.2Rシリーズ」の提案等を行い、拡販に努めます。

24時間遠隔監視のメンテナンスシステム「テレメンテ」の活用および当社独自の「イーコップセイバー」等の省エネルギー提案を積極的に行い、引き続き改修改造工事・メンテナンスの受注拡大に努めます。

## ボイラ事業

大型貫流ボイラ「イフリート」を中心とした機器ラインナップに加え、「油焚き燃焼ターナウン5:1制御システム」や、大型貫流ボイラで初めて開発に成功した「VOC燃焼システム」や「排ガスO<sub>2</sub>濃度制御システム」等の、お客様の省エネニーズに対応する製品を提供し、拡販に努めます。

改修改造工事・メンテナンスは、定期検査、燃料転換や省エネ改造などの改修工事を中心とした工事の受注拡大ならびに年間保守契約の獲得向上に努めます。

# 参 考

当社は、「エクセレントカンパニーの構築」を目指し、顧客ニーズにあった商品を業界一級の技術で提供することにより適正利益を確保し、株主には適正な配当を行うとともに従業員および全事業従事者のために人間性豊かでゆとりのある業務遂行と暮らしを創造し続けながら、社会に貢献することを経営の基本方針としております。

当社の関連する空調業界では、今後は電力使用の制約から電力ピークカット効果の高いガス空調が見直されていくものと思われれます。

ボイラ業界では、貫流ボイラを中心とした市場構造には変化が無いと思われれます。

空調・ボイラ業界共に、環境性を考えて今後も省エネルギーおよび未利用エネルギーを有効利用する機器の開発が活発化していくものと思われれます。

## 本資料に関する問合せ



## 川重冷熱工業株式会社

企画室 経営管理部

TEL 077-563-1111

### ご注意

本資料のうち、業績見通し等に記載されている将来の数値は、現時点で把握可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、これらの業績見通しのみにより依拠して投資判断を下すことはお控え下さるようお願いいたします。